特集

第2回 中部大学発

『魅力ある授業づくり』作品コンクール 受賞者決定

学生・教職員が共に「授業」を考えるFD(Faculty Development)活動の一環として、「魅力ある授業」をテーマに作品募集が行われました。

授業を受けて感じることや、心に残った授業、自分の未来を変えた授業など、あなたにとっての「魅力ある授業」とは？ コンクールには、28人の学生から33作品の応募があり、3月8日の授業賞式で11作品9人に中部大学長賞をはじめ各賞が贈られました。授賞式後、石原修学長を囲んで懇談会が行われました。

※FD活動…主に授業改善をはじめとした教育活動改善に向けた教員の資質向上策として組織的に取り組む活動。

中部大学長賞 ★★★

エッセー

「アメリカの授業が教えてくれた」

人文学部 英語英米文化学科
川口 由依奈

優秀賞 ★★★

エッセー

「ダメ出し大歓迎の授業の魅力」

生命健康科学部 生命医科学科
浅井 美月

優秀賞 ★★★

俳句

学びの輪 それに繋がる 仲間の輪

工学部 都市建設工学科
田山地 弘樹

優秀賞 ★★★

俳句

九十分 見つけた自分と 未来の種

大学院 応用生物学研究科
応用生物学専攻 博士前期課程
中村 圭那

▶作品や講評は

中部大学　魅力ある授業　作品コンクール　検索

▶デジタルブック

https://www2.chubu.ac.jp/digibook/contest_opus/2018/

学生審査員特別賞

俳句

良い評価
取ろうと思って
E評価

経営情報学部 経営学科　西川 浩平

※E評価…中部大学の成績評価で不合格を表す評語

小論文・エッセー部門賞

エッセー

「何かに活かされる授業」

国際関係学部 国際文化学科　渡邉 玲

俳句・短歌部門賞

短歌

初授業
大きく違うと
感じつつ
高校時代の
それより自由で

工学部 ロボット理工学科　濵地 優輝

教職員審査員特別賞

俳句

授業聞く
姿勢が未来を
決めている

大学院 応用生物学研究科 応用生物学専攻 博士前期課程　鳥谷 采加

教職員審査員特別賞

エッセー

「先生と私」

経営情報学部 経営学科　西川 浩平

小論文・エッセー部門賞

エッセー

「知識の創造者」

オープンカレッジ聴講生　早川 尚宏

俳句・短歌部門賞

短歌

交し合い
魂注ぎ
した実習
身に着けたのは
不言実行

大学院 応用生物学研究科 応用生物学専攻 博士前期課程　中村 圭那

学長と受賞者による懇談会

魅力ある授業

作品コンクール受賞者のうち7人が学長を囲み、作品を通して伝えたかったことや魅力ある授業について意見を交わしました。

※出席者の学年および教員の役職は懇談会開催当時のもの（敬称略）

作品に込めた思い

杉井大学教育研究センター長　この「魅力ある授業づくり」作品コンクールは、学生の皆さんの声や考え方を知り、授業づくりに参画していただきたいという趣旨で4年前に行われ、今回が2回目になります。本日皆さんにまずお聞きしたいことは、応募のきっかけと、作品で最も伝えたかったことです。一人ずつお願いします。

中村　大学院生になって今一番役に立っていることは、学部生時代に実習で身に付けた不言実行の精神です。周りを見て察して自ら進んで行動することが実習を通して身に付き、今の大学院での研究に役立っています。その思いを「交し合い 魂注ぎした実習 身に着けたのは 不言実行」の短歌に込めました。俳句作品は、はじめのうちはあまり興味が持てずにいた『微生物学実験』の授業が途中から面白いことに気づき、"こんなことにも興味が持てるんだ"という発見を「九十分 見つけた自分と 未来の種」と詠みました。学部生時代は大学院に進むつもりはありませんでしたが、自分が興味の持てることを発見できて、それが今につながっています。

大学院
応用生物学研究科
応用生物学専攻
博士前期課程2年
中村 圭那

杉井　授業を受けていく中で変化していったのだと思いますが、どういうところが一番影響したのですか。

中村　先生の教え方、興味の引き出し方が上手だったのだと思います。もっと知りたいと思える実験で、私の興味を引き出してくれました。

杉井　探究心のようなものですね。田山地くんはどうですか。

田山地　学科の先生からお話を伺って応募しました。普段勉強を周りの人に聞いて教わることもあって、その関係から仲間ができていきます。そのことを「学び」と「仲間」という言葉で伝えたいと思い、「学びの輪 それに繋がる 仲間の輪」と詠みました。

杉井　作品から、仲間と学びの異次元の輪が広がっていく気がしました。

川口　私は所属する英語英米文化学科の先生からコンクールについて教えていただきました。2年生の時にアメリカのオハイオ大学に留学して、そこでの授業で驚いたことをエッセーとして書きたいと思いました。留学先の授業では、講義途中でも学生が質問や反対意見を投げ掛けていて、日本ではあまり見ない光景だと思いました。そういった授業が日本でも展開されたらいいと思い書きました。

杉井　帰国してから変わったことはありますか。

川口　授業で積極的に発言するようになりました。今まではノートをとっているだけという感じでしたが、分かっているなら手を挙げてみよう、質問してみようと。

英語英米文化学科4年
川口 由依奈

石原学長　私はテキサス工科大学で15年程教えてきましたが、「教え授ける」というフルスペックな授業はあまりありませんでした。川口さんの言うようにやりとりしながら進んでいくといった感じでしたね。

渡邉　私は所属しているE.S.S.クラブで脚本を書いていることもあって、文章を書

きたいと思ったことが応募のきっかけです。文を書く時は毎回テーマがあって、今回は国際関係学部の授業の魅力を書きたいと思いました。具体的には、『文化人類学入門』の授業が、私にとってカルチャーショックだったのですが、さまざまな地域の民族の風習や儀式などを学んで、今まで知り得た世界はとてもちっぽけだったと気づきました。また、授業を受けてのコメントが翌週の授業のレジメに掲載されるのですが、どの学生も自分の意見を率直に言っていて、その意見や感想を共有することで1つの事実に対して多くの感じ方で見ることができました。その世界の広がりが脚本づくりにも生かされました。

早川　聴講生になり15年ほど経ち、一方的に知識や知恵を得るだけではなく、何か大学に対してお返しとして自分から発信したいと思い応募しました。山下興亜前学長の「知識の消費者にあらずして、知識の創造者たれ」という言葉がカルチャーショックで、自分なりにその解釈を考え、知識をもとに知恵に変えろということなのかと思いましたが、未だに答えが出ていません。私は生涯学生でいたいと思っています。

オープンカレッジ聴講生
早川 尚宏

杉井　学びに終わりはないということですね。

石原　一人一人違う人が集まって、その中で意見を交わすうちに知識の創造が生まれてくるのではないかと思います。

経営学科3年
西川 浩平

西川　僕はエッセーと俳句で特別賞を2ついただいたのですが、エッセーは先生に向けた感謝の気持ちで書かせていただきました。以前は勉強嫌いでしたが、ある1人の先生に出会ってから勉強が大好きになって、もっと違うことも勉強したいと探究心が生まれた結果、他大学に3年次編入してさらに勉強していくことになりました。そのきっかけになった先生に感謝の気持ちを伝えたいと思いました。俳句は、学生なら誰でも思うかなということを詠みました。しっかり勉強していても良い評価を受けられないこともあります。それを表したいと思って「良い評価 取ろうと思って E評価」と詠みました。

杉井　評価だけを気にして授業を受けても身にならないだろうというのが私の感じたところです。

石原　成績ではE評価の人がいると思いますが、それは必ずしも1つのスタンダードで見たABCDEであって、別の視点から見たら良い場合もあります。まさに多様性といいましょうか。

鳥谷　応募のきっかけはここにいる中村圭那さんに教えていただいたことです。4年生で国家試験に向けた勉強をするにあたって、今までの授業できちんと聞いていなかった部分があり、もっと授業を聞いておけば良かったという後悔の気持ちを伝えたいと思い、「授業聞く 姿勢が未来を 決めている」という俳句を詠みました。

杉井　大学院生らしい経験ですね。ぜひ1年生に聞いてもらいたい内容です。

キーワードは「カルチャーショック」

杉井　皆さんのお話を聞いて、キーワードとして「カルチャーショック」を挙げたいと思います。それが授業では必要かと思いました。川口さんの場合は「海外留学」で環境が変わったこと、早川さんの場合は時代を超えた仲間と学ぶ「時」、渡邉さんの場合は「インパクトのある授業」。そういったカルチャーショックが探究心に変わっていくのが共通しているように思いました。そういった授業は高校まではあまりないのでしょうか。

渡邉　高校は決められた内容を学ぶと思いますが、大学では自分の学びたい授業が履修できます。そしてその中で刺激を受けてさらに勉強が広がっていきます。

杉井　決められた内容を学ぶ高校では、

大学教育研究センター長
司会 杉井 俊夫

”授業に発見がある“というのはなかなかないのかもしれませんね。だから教科書に書かれていないことが大切かもしれません。教科書どおりの授業より、脱線する授業のほうがカルチャーショックを受けるのでしょうか。

鳥谷　私の場合はカルチャーショックをあまり感じたことはありません。授業は教科書どおりにやることも大切だと思いますが、脱線した話をしてくださったほうが記憶に残ることはより多いと感じます。

田山地　カルチャーショックというか驚きは多いです。都市建設工学科に所属していて土の力学とかコンクリートの構造物などを学んでいますが、学んだことが派生してまた別の勉強につながっていく中で、”この部分にこの知識が役立つのか“という驚きです。

都市建設工学科3年
田山地 弘樹

杉井　大学の授業では、分厚い本の全てをやることはできないので、その中からあるきっかけ、ヒントをつまみ出してそこから学生の皆さんに火がついていくという感じですね。先生方がどういうところをピックアップして披露するかはすごく大事だと思っています。

石原　多くの講義では一生懸命全ての内容を教えようとするからかえって時間が無いように思います。

早川　大学ですから脱線話も魅力ですね。人それぞれ感性が違いますから一律的な教えよりは、興味が持てるように思います。ある程度フリーな授業、学生が考える授業が良いと思います。

杉井　教育熱心な先生はわざと脱線話を考えているそうです。その話は先生の教え方に実は上手に組み込まれているのですね。それに学生の皆さんがカルチャーショックなり化学反応を示すというのは、先生の意図する準備があってこその効果かと思います。

探究心をくすぐられるには

杉井　探究心を刺激されたり、勉強しようという自主的な学びを促したりするには何が大切だと思いますか。

中村　個人によると思いますが、私の場合はグループワークでいろいろな意見を聞いて刺激を受けると、もっと調べよう、勉強しようという気になります。

杉井　学び合いということですね。

川口　中村さんと同じように自分が考えもしなかった意見に触れた時は刺激を受けます。また、自分の知らないことを知った時は、もっと調べよう、知りたいと思います。

西川　私の場合は、出会った先生をどれだけ尊敬できるかというのが一番重要でした。毎日のように研究室に行っていろいろな話を聞かなければ探究心は生まれなかったと思います。

国際文化学科3年
渡邉 玲

渡邉　自分に合ったものを見つけて選択していけば自然に探究心も生まれるのではないでしょうか。3年生になって他学科の授業を受講してみたのですが、いろいろな方面のものを見たらどれが自分に合っているのか道筋ができると思います。ですから学生ならいろいろな分野の授業を受けてみる。先生からすれば学生の書いたレポートの感想を見てその学生とフィーリングが合っていたら話し掛けてくださっても良いと思います。私にもそういう先生がいて、よりお互いを知ることができています。

田山地　知りたいことに対して貪欲であり続ければ自主的な学びにつながっていくと思います。私は講義中に分からないことがあると嫌なタイプなので、自分で調べたり、先生に聞いたりしています。

鳥谷　自主的な学びを促すには、まず基礎知識が大事だと思います。基礎知識があれば新しい知識が入ってきてもどんどん

大学院
応用生物学研究科
応用生物学専攻
博士前期課程2年
鳥谷 采加

つながってきて面白さが分かってきます。私の学科は高校時代に文系だった人、理系だった人の両方が入学してくるので、その時点でそれぞれ持っている知識が違います。そういった知識の差を最初にカバーするのもその後の自主的な学びに影響すると思います。

杉井　一人では気づかなくても周りの人がいれば気づくこともありますね。

早川　探究心というのは常に自分が何か知りたいということを持つことが大事だと思います。そしてそれがたまたま授業で行われた時、探究心を刺激されるのではないでしょうか。秋学期に受講したある先生の授業が素晴らしくて、授業を受けるたびに図書館に行って勉強しました。それから、先生と波長が合うことも大事だと思います。

石原　波長が合うとありましたけど、同じことでも自分の中で歴史が変わっていくので、以前には波長が合わなかった場合でも波長が合うようになることがありますよね。

早川　ありますね。年齢によって興味も変わってきますしね。

杉井　最後に一言、あなたにとって『魅力ある授業』とは?

田山地　「**発展**」です。学びの輪も仲間の輪も数珠つなぎ。人とのつながりも、学びもどんなことでも1つのことからどんどん膨らんでいくので「発展」を挙げます。

中村　「**記憶に残る授業**」です。あとから振り返って思い出す授業は良い意味でも悪い意味でもインパクトのある授業だと思います。将来役立つのはもちろん、自分にとっては印象の良くない授業だったとしてもそこから学べるものも絶対にあると思います。

鳥谷　私も中村さんと同じで「**記憶に残る授業**」です。大変だったり面白かったりする授業は思い出の一部になると思いました。

西川　私は「**他のことを諦めてでも受けたい授業**」です。アルバイトなどの時間を割いてでもその授業を受けたいと思ったらそれが一番魅力だと思います。

早川　私は「**先生と波長が合った時の授業**」です。それは自分が合わせるのではなく、先生に合わせてもらうのでもなくて。

渡邉　「**自分自身に合った授業**」です。大学は集団ですが個人の学びの場です。自分が一人になった時に、直感的に良いと思えるものが良いと思います。

川口　私は「**対等**」だと思っています。オハイオ大学での授業を受けて先生が一方的に教えるのではなく、学生も参加型だったのでお互い対等に学ぶ姿勢が魅力的だと思いました。

石原 修学長

石原　学生も個人、教員も個人で、教員も学んでいるから「**対等**」なんですね。だから波長が合う。最後に、やはり田山地さんの言ってくれた「**輪**」というのは重要だと思いました。輪があってつながりができる。昨今、AIに関する話題が盛んですが、知識を集めているだけのAIは過去の知識から検索して答えを見つけているだけです。大学では意見を交わし合って、それに影響を受けて自分の意見も変わってきますよね。そういう場であるのが大学の面白さであり、高等教育の知を生み出すところなのではないかと思いました。

杉井　これからも『魅力ある授業づくり』に向けた活動を続けていきたいと思います。ありがとうございました。